

図書館だより

第98号 令和8年度7月発行



独立行政法人国立高等専門学校機構
都城工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN), Miyakonojo College

目次

「朝日の中で」	校 長 田村 隆弘	1
「地域おこしの文学」	図 書 館 長 笹谷 浩一郎	3
「本当の豊かさとは」	一般科目文科 隈元 智仁	5
「読んできた本」	一般科目文科 山本 有香	7
「新任教員挨拶」	建 築 学 科 横屋 翔	9
「宇宙への好奇心から専門の探究へ」	電気情報工学科 公文 麻人	11
「気分の流れにおまかせします」	機 械 工 学 科 茂 零音	13
「BOOK HUNTING2026」		16
図書委員による、夏のオススメブックレビュー		17
図書アンケート		19
編集後記		27

朝日の中で

校長 田村隆弘

5月6日、24年前にクラス担任をした教え子の見舞いに山口まで帰りました。ユカリは大腸癌で余命短いとのことでした。

お土産やお見舞いの花束を用意することは容易でしたが、どんな言葉をかければ良いのかはとても難しい問題でした。パソコンの中からクラス担任時代の記録や写真を見つけ出して、持って行くことにしました。ことさら、クラスで餅つきをした時の彼女のスナップ写真はナイスショットでした。



ユカリは既に病院から自宅にベッドを移していました。最後は自宅で過ごしたということかと思います。待ち合わせの時間に彼女の家の前に行くと、私に彼女のことを知らせてくれた同級生がクラスメイトにも声を掛けていて、6人でお邪魔しました。私と同じ年のお母さんが迎えてくれましたが、挨拶もそこそこに彼女のベッドに行きました。彼女は、酸素を鼻から送っているようでしたが、満面の笑みで私を迎えてくれました。しかし、その顔も布団から差し出した手もとても痩せ細っていました。

さっそく、お土産や思い出の写真など渡すと、まだまだ大丈夫だよ、と言わんばかりの笑顔としっかりとした声で、「ありがとう、嬉しい。」と言ってくれました。

そこからは、同級生も一緒に懐かしい思い出話や近況報告で終始笑いが絶えませんでした。約束の1時間があっという間に過ぎて行きました。

どんな言葉をかけようかと言う心配は、全く必要の無いことでした。

再会を約束しながら握手を求めると、ユカリは両手で全力で握手をしてきました。

彼女が残された時間を精一杯生きていることを感じた時間でした。

実は、その後、私の母親の見舞いにも行きました。母親は93歳の長寿ですが認知症を煩い、私のことも分かりません。

しかし、彼女も満面の笑顔で私を迎えてくれます。

今思うことは、そう、人生は多少の長短はあるにせよ、そのゴールを考えながら生きるのでは無く、今を如何に生きるかということが大切なんだということ。

今を明るく楽しく、笑顔で過ごすことが何より大切だということ。

人生は、辛いこと悲しいこと腹立たしいこと、上手くいかなくて悔しいこと、そんなことばかり。

たからこそ、楽しいこと、嬉しいこと、笑い合うことが尊いということ。

笑顔で生きることが出来るように、出来る限り努力すること、身の回りのいろんな出来事を受け入れながら、自らをコントロールすること（control myself）が大切ということ。

5月13日の夜、先日お見舞いに行った教え子のクラスメートから、ユカリが亡くなったと連絡が入りました。葬儀は5月16日、前日の夕方に通夜が行われるとのこと。5月16日は高校野球の公式戦一回戦があって監督の私が帰省することはできません。家内に通夜に弔問してもらうことにして、私からは弔電を打つことにしました。「ご逝去の報に接し、心からお悔やみ申し上げます。ユカリさん、頑張りましたね。私には笑顔の思い出しかありません。これからみんなの心の中にユカリさんの笑顔があります。ご冥福をお祈りいたします。」

葬儀の後、クラスメートからお礼のLINEが入りました。「無事、送り出しました。奥様の弔問もありがとうございました。今日はすごく快晴でユカリの笑顔のような日でした。先生の弔電にありましたが、寂しくなったけど、彼女はずっと私たちの心の中にいますよね。」LINEには、「今度は、先生の退職祭で会いましょうね。」というメッセージに、葬儀に参列してくれた14人のクラスメートの笑顔の写真が添えられていました。

葬儀の日の高校野球の試合は、同点で迎えた9回裏ワンアウトから4番バッターが四球で出塁した後、5番打者が初球をフルスイング、三塁打を放ちさよなら勝ちしました。まるで勝利の女神が微笑んでくれた様に、打球はまっ青な大空にとっても大きく美しい放物線を描いて吸い込まれていきました。

地域おこしの文学

図書館長 笹谷浩一郎

大都市から離れた地方都市に暮らしていると、豊かな自然に囲まれ、毎日おいしい地元産の食材を楽しみ、ラッシュや渋滞を気にせず通勤、通学できるなど、それなりに満足のいく生活ができてしまうのですが、気になるのが人口減少や高齢化による影響です。今回は、大切な故郷を守りたい、盛り上げたい、なんとかしたい、という思いを行動に移す人々の奮闘を描いた、いわゆる「地域おこし」をテーマとした作品をいくつかご紹介します。

・荻原浩 著『オロロ畑でつかまえて』



この作品に興味を抱いたのは、サリンジャーの「ライ麦畑でつかまえて」が私の愛読書だったからです。ちなみにオロロとは、人口三百人の牛穴村特産「オロロ豆」のことで、村の行く末に危機感を抱いた村人たちと、村おこしをプロデュースすることになった倒産寸前の広告代理店の奮闘が描かれています。自分の村の持つ魅力に気づき始めた村人たち、活動を通じて自分の仕事に誇りと情熱を取り戻していく社員たちに読者は励まされます。なお、この広告代理店「ユニバーサル広告社」の活躍を描いた「なかよし小鳩組」

「花のさくら通り」は、「ユニバーサル広告社三部作」としてファンに親しまれており、地域おこしを応援する楽しい作品としてご紹介しておきます。

・黒野伸一 著『限界集落株式会社』



過疎化、高齢化のため社会的な共同生活の維持が困難になった土地のことを「限界集落」というのだそうです。「マクドもない、スタバもない、セブンイレブンさえない」という書き出しで始まるこの作品の舞台となる村には、過疎、高齢化、雇用問題、食料自給率など、日本に山積する社会不安がすべてそろっています。主人公は自ら起業するため東京のIT企業を辞め、休養のため祖父が残した故郷の村を訪れます。村の人々と交流するうちに、自分のキャリアを活かして集落の農業経営に乗り出すことになるのですが、現代の農業や地方の集落が抱えるさまざまな課題、従来のやり方に固執し変化を嫌う勢力、といった難題が立ちふさがります。集落の消滅をなんとか防ぎたい高齢者、零細農家の父娘、都会から逃げるように村にやってきた若者たちとともに立ち上がる主人公の奮闘が読みどころです。

・有川浩 著『県庁おもてなし課』



高知県庁観光部に「おもてなし課」ができた、という想定のもと、この作品は書かれています。「観光立県を目指し、県外観光客を文字通り「おもてなし」する心で県の観光を盛り立てようというコンセプトそのままに、親しみやすさを狙ってその課名はついた」という一文が暗示するように、今まで県庁内しか知らなかった公務員にとって、独創性と積極性をもって企画立案を進めていくことは並大抵のことではありません。一人の若手職員が他の自治体の取り組みを参考に「観光特使」制度を始めることになるのですが、この企画に繰り返しダメ出しのメッセージを送ってくる地元出身の作家がいます。この作家は「お役所仕事」的発想から抜け出せない職員たちにいらだちを隠せませんが、地元が元気であってほしいという気持ちから、職員としたいに心が通じ合うようになります。地域振興の取り組みと並行して描かれるラブストーリーも秀逸です。

・新保裕一 著『ローカル線で行こう！』



かつて鉄道オタクだった私の小学生時代の愛読書は「全国国鉄（JR ではない）時刻表」でした。時刻表を手には架空の旅行日程を立て、全国各地の本線、ローカル線を引き継いで、名物の駅弁をチェックする、というのが私の密かな楽しみでした。そのため、各地のローカル線廃止のニュースには心を痛めてきました。宮崎県内にもかつては細島線、妻線、高千穂線、志布志線といったローカル線があったのです。この作品では、多額の赤字を抱え廃止が検討されている第三セクターのローカル線「もりはら鉄道」の再生に乗り出す人々の奮闘ぶりが描かれています。リーダーとなるのは県庁から鉄道会社に向向している青年と、地元出身で新幹線のカリスマ・アテンダントとして名をはせた亜佐美という女性です。最初はあきらめ気分だった鉄道会社のスタッフたちでしたが、亜佐美の「お金がないなら知恵を出そう」という声に動かされて、沿線住民や鉄道ファンを巻き込む企画を次から次へと繰り出していきます。吉都線というローカル鉄道を身近に感じる私たちでも、おおいに楽しめる作品かと思います。

皆さんの気に入るような作品はあったでしょうか。すべて文庫で出版されており、現在でも入手しやすいものばかりです。他に地域おこしや地元を元気にすることをテーマとした作品をご存じでしたら、ぜひ紹介してください。

本当の豊かさとは

一般科目文科 隈元 智仁



みなさんはじめまして。今年度より本校の一般科目文科に着任しました隈元智仁と申します。現在は「英語コミュニケーションⅠ」と「英語Ⅲ」の授業を担当しております。専門はアメリカ文学で、意外と読書好きです。そんな私の「人生を変えてくれた本」というと少し大げさですが、F・スコット・フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』を紹介したいと思います。

人間なら誰もが「過去をやり直したい」と考えたことがあると思います。「あのとき別の選択をしていれば…」「もう一度あの人に会えれば…」『グレート・ギャツビー』は、そうした願いのまぶしさと危うさを、美しく、そして切なく描いた小説です。

作者のF・スコット・フィッツジェラルドは、1920年代のアメリカを代表する作家でした。当時のアメリカは、第一次世界大戦後の好景気に沸き、ジャズや映画、華やかなパーティーなど、消費文化が広がっており、一見すると、誰もが成功を夢見られる明るい時代のように見えました。しかし、その輝きの裏には、貧富の差や孤独、道徳のゆらぎ、そして「物質的に豊かになれば本当に幸せなのか」という不安もありました。『グレート・ギャツビー』は、そんな時代の光と影を、ギャツビーの「夢」を通して描いた作品です。

物語は、青年ニック・キャラウェイが、隣人である大富豪ジェイ・ギャツビーと出会うところから始まります。ギャツビーは、毎晩のように豪華なパーティーを開く、誰もがうらやむ華やかな人物として登場します。ギャツビーの屋敷には音楽が鳴り、豪華な料理が用意され、見知らぬ人々が集まります。しかし、彼は名声を見せびらかすためにパーティーを開いていたのではありません。その華やかさの奥にあったのは、ただ一つの願いでした。いつかその灯りに引き寄せられるように、昔の恋人であるデイジーが自分のもとへ現れることを待っていたのです。そして、偶然、ギャツビーの主催するパーティーにきたデイジーとギャツビーが再会するところから物語は大きく動き始めます。

『グレート・ギャツビー』は、昔のアメリカの華やかな時代を描いた小説ではありません。ギャツビーの姿は、現代を生きる私たちにも重なります。今はSNSによって、誰もが自分をよく見せることができる時代です。楽しそうな写真や成

功しているように見える姿を目にすると、自分だけが取り残されているように感じることがあります。しかし、その華やかさの裏にある孤独や不安までは、画面越しには見えません。

ギャツビーの豪華なパーティーも、それとよく似ています。彼の屋敷では、毎晩のように音楽が鳴り、人が集まり、夢のような時間が流れていました。しかし、その華やかさは彼の幸せの証ではありませんでした。彼が本当に待っていたのは、大勢の客ではなく、たった一人、デイジーでした。彼は彼女にもう一度会いたい一心で、夜ごと眩しい光を放ち続けていたのです。

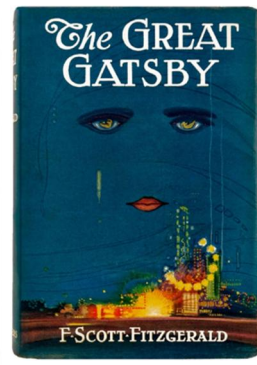
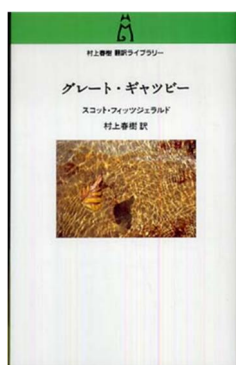
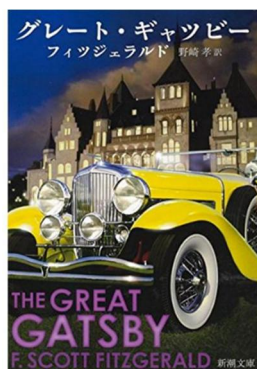
人は誰でも、誰かに認められたい、自分をよく見せたい、何者かになりたいと願うことがあります。しかし、その願いが強くなりすぎると、本当の自分や本当に大切なものを見失ってしまうことがあります。ギャツビーは、夢を持つことの美しさと同時に、夢にのみ込まれる危うさを教えてくれる人物です。学生の時期は、進路や将来、人間関係の中で、自分が何者なのかを考え始める時期だと思います。だからこそ『グレート・ギャツビー』は、今の君たちにとって読む価値がある作品だと思います。

もう一つ、この作品の面白いところは、翻訳の読み比べができることです。村上春樹訳、野崎孝訳、小川高義訳など、いろいろな訳者がこの作品を訳しており、同じ物語なのに、訳者によって登場人物の声や場面の空気が少しずつ違って感じられます。いわば、同じ名曲をいろいろなアーティストのカバーで聴くような楽しさです。

そして読み比べていると、自然にこう思えてきます。

「原書では、どう書いてあるんだろう？」

その気持ちが出てきたら、ぜひ原書にも挑戦してみてください。全部読めなくても、好きな名言や印象に残った場面だけで十分です。翻訳を入り口にして原文へ進めるところも、『グレート・ギャツビー』の大きな魅力の一つだと思います。

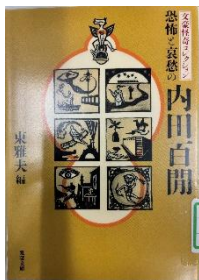


読んできた本

一般科目文科 山本有香

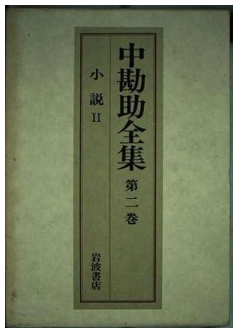
みなさん、こんにちは。本年度より着任しました一般科目文科の山本有香と申します。内田百閒（うちだ・ひゃっけん）という作家について研究しています。今回は内田百閒を含む近代文学作品を中心に、読んで面白かった本を紹介します。

① 内田百閒著、東雅夫編『恐怖と哀愁の内田百閒』



本書に収められた「サラサーテの盤」は、映画化されたこともあって百閒の作品の中ではよく知られています。作曲家にしてバイオリンの名手であるサラサーテのレコードをめぐって「私」と親友の妻との間で静かな緊張が高まっていき、やがて限界を迎えるまでが克明に描かれた小説です。文章でこんなことができるのかと驚く作品でもあります。

② 中勘助『提婆達多』（『中勘助全集』第2巻所収）



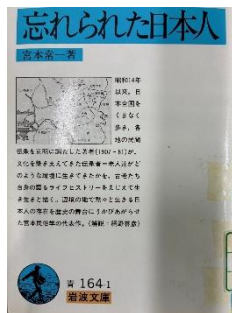
タイトルになっているのはシッダールタ（ブッダ）のいとこ・デーバダッタの名前です。彼は非の打ち所がないシッダールタに嫉妬してあれこれと修行の妨害工作を行いますが、ことごとく失敗に終わります。長年の修行の結果、シッダールタは悟りを開き、デーバダッタは妬みの感情にまみれたまま人生を終える……という話ですが、語り手はデーバダッタを批判しません。なぜなのか？ その理由は本書を読んで確かめてください。この作品を読むと、他人を批判したくなったときに少し立ち止まることができるような気がします。

③ 柳田國男『遠野物語』



本書は民俗学者の柳田國男が、岩手県は遠野出身の友人である佐々木喜善から聞き取った、郷土に伝わる話をまとめたものです。オシラサマ、ザシキワラシ、マヨイガなどは聞いたことのある人もいないかもしれません。本書を通じて全国に知られることとなった、独特の魅力をもった伝承が、遠野を今でも一大観光地にしているのはご存じのとおりです。

④ 宮本常一『忘れられた日本人』



本書も民俗学者による聞き書きを中心としたものです。柳田に影響を受けた宮本常一は日本の村々を回り、当地に生きるさまざまな人々の言葉を収集し記録しました。こうした人々の話を読んで印象に残るのは、社会そのものが完璧にできてはいないことを前提に、何かあれば柔軟に対処するという力強さです。いろいろな人とつながること、そして目の前のできることをやっていくという生き方には、現代の私たちも学ぶべきところが大きいと思います。

以上、読んできた本の中から4つ挙げてみました。息抜きしたいときに手に取っていただけると嬉しいです。

新任教員寄稿

建築学科 横屋 翔

本年度より、建築学科に新しく着任いたしました、横屋翔と申します。私は、徳山工業高専の土木建築工学科・環境建設工学専攻科を卒業し、豊橋技術科学大学の大学院に進学したのち、都城高専にやってきました。



私の時代は、「高専にはオタクが多い」というのが世間の印象でした。私もその例にもれず、本を読むよりもゲームをするのが大好きな人間で、特に RPG ゲームやシミュレーションゲームなどを好きでよくやっていました。その影響で、趣味の読書という意味では、ゲームに関係するライトノベルを読むことが多かったように思います。これらの本は、ゲーム内の物語を補完するものが多く、キャラクターの内面や関係性がより引き立つという意味で面白く読んでいました。一時期はゲーム内のキャラに憧れて、中国古典や新渡戸稲造氏の『武士道』、宮本武蔵の『五輪書』などを読んだりしました。

高専に入ってから、人間関係で悩んだり、自分ってなんだろうと思ったり、他人と比べた時に劣等感を感じたりすることが多くなり、自己啓発本などを読み漁っていた時期があります。S・R・コヴィー氏の『7つの習慣』の日本語訳版や、アドラー心理学に関する本などはいくつか通しました。ほかにも、自分が可愛いものが好きなので、JAM氏の『多分そいつ、今頃パフェとか食ってるよ。』のように、挿絵がかわいい自己啓発本なども好んで読んでいます。挿絵や漫画付きの自己啓発本は、自分の好みと合えば読みやすいのでお勧めです。

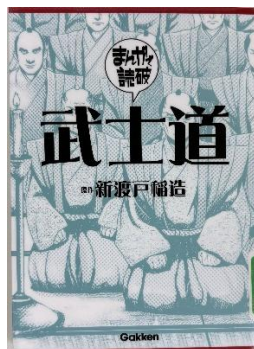
大学院に入ったあたりはちょうどコロナ禍の2年目くらいで、人との関わりが薄れて研究がメインの生活になったことで、孤独や憂鬱感、自信のなさで悩むことが多くなりました。そんな時に、フランク心理学が目に入り、関連する本をいくつか読みました。これから先に出会うものごと、人生そのものが自分という存在を待っているという若干宗教っぽい考え方ではありますが、自分を前向きに保てるのであればその考え方でもよいのではと思います。

以上のように、私にとっての読書は文学を楽しむものではなく、自分の興味を満たし、悩みを解決するものだったように思います。皆さんも、何かに悩んで答えが見つからないときは他人を頼るのもよいと思いますし、本に頼るのも良いかもしれません。

以下、建築学科の学生向け

建築構造や構造力学に興味がある学生は、M・サルバドリー氏の『建築の構造』や『建物

はどうして建っているか』などが、式などを使わず直感的に学ぶことができるため、非常にお勧めです。意匠設計や施工監理、建築系公務員を目指す人にも超おすすめです。どちらも図書館にあるようなので、ぜひ読んでみてください。



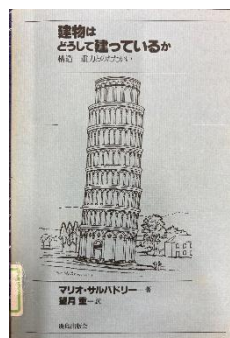
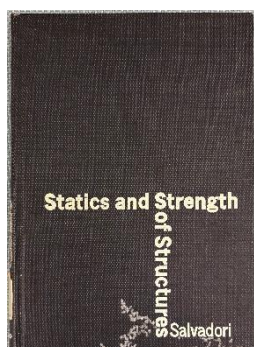
新しう道稲造原作『新しう道』



宮本武蔵著『五輪書』



JAM 著『多分そいつ、今頃パフェとか食ってるよ。』



M・サルバドリー著『建築の構造』、『建物はどのように建っているか』

宇宙への好奇心から専門の探究へ

電気情報工学科 公文 麻人

本年度より電気情報工学科の助教として着任しました公文 麻人（こうぶん あさと）です。私は、本校の電気情報工学科および専攻科の出身であり、大学院卒業後、日産自動車エンジニアとして3年勤務し、本校教員として戻ってくることとなりました。図書に関する話題として、小学生時代と高専時代について振り返ってみたいと思います。



私は小学生低学年の頃、昼休みに大人数で遊ぶことが嫌いであり、友達に誘われるのを回避するために図書館に行き、一人で読書を楽しんでいました。このとき、熱中したのが宇宙に関する本でした。読書をするうちに、小学生ながら、「地球があって、人間が生活している」という当たり前の外側に、「多くが未知であり、とてつもない大きさを持つ宇宙」が存在していて、それは遠い過去に生まれたはずであるということを学び、ロマンを感じていました。昔の話で、読んだ本は具体的に記憶できていないのですが、日々、宇宙について学んだことを両親、祖父母などに話していたことを覚えています。小学校に図書館という環境があったことで、宇宙について学ぶのが楽しいと感じ、科学技術に関心を持つきっかけが生まれたと感じています。

高専時代を振り返ると、理解不足の科目の学習や進学に向けた受験対策などで図書館を利用していました。受験に向け、複雑な問題を解く力をつける必要があったため、電気回路、電磁気学とそれらを理解するために必要な数学に関する教科書、参考書を探していたことを思い出します。今回は、当時使用していた本を2冊紹介します。

学生の皆さんには、自身に合う本を探してみてもらいたいと思っています。初学者向けの易しく記述されたものから、高度な知識を身に着けるための難解なものまでありますが、皆様の学習状況や目指すステージによって、学習すべき内容が変わってくるはずです。図書館にある豊富な教科書、参考書を活用し、ステップを踏みながら、自身が必要とする知識を習得してみてください。

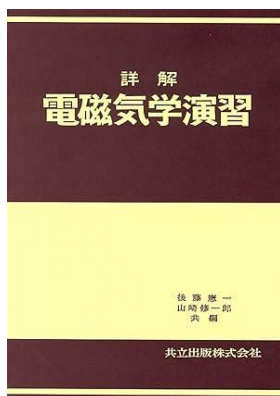
推薦図書

・電気電子工学シリーズ 電気回路 香田徹 吉田啓二 [著]



大学学部から大学院まで通用する内容がまとまっており、適度に演習問題も掲載されている一冊です。初学者向けではないですが、この本を学習すれば、応用的な考え方まで習得できると思います。また、私が目標としていた大学で使用されている教科書であり、学習していたことで、入試で類似問題に対応することができたと感じています。編入学や大学院進学を目指す場合は、目標大学で使用されている教科書を調査し、参照されることをお勧めします。

・詳解 電磁気学演習 後藤憲一 山崎修一郎共編



電磁気学に関する幅広い演習課題を網羅した一冊です。電磁気学は、基本的な状態について考えると各公式を理解できたように感じますが、複雑な状態について考えると、どのように考えるべきか分からなくなることが多々あります。この本は、多くの演習課題が掲載されており、様々なケースでの解法をまとめてくれています。基礎知識を修得できた後、より知識を深化させる段階で学習してもらえると良いと思います。

気分の流れにおまかせします

機械工学科 茂 零音

本年度より機械工学科に助教として着任しました, 茂 零音です. 私は普通科高校, 大学, 大学院を経て本校に着任したので, 高専は初めての環境です. 本校に在籍する皆さんと過ごす中で, ゆっくりと雰囲気を感じ取っていかれたらと思っています. なお, 現在も博士学生として大学院に在籍中です. 25 歳でも学割でラーメンにご飯を付けてもらえるありがたさとともに, 若干の後ろめたさを感じる日々です.

図書に関する話題で 1 ページとの依頼ですが, 私には読書の習慣が全くありません. 記憶の中を「読み切った本 小説」と検索しても片手で足りるほどしか引っかかりません. 私は本を読んだ数よりも本を読んでどんな影響を受けて何をしたか, 何を感じ, 考えたかが大事だと思います…と言い訳しておきます.

さて, 私は学会に行くと, 本の下調べなど一切せずに本屋さんに立ち寄り, 表紙が目に残った本の中味を少し見て, 気になったらジャンルを問わず一冊買うことにしています. 2025 年 12 月に行った青森県弘前市では, フロムの「愛するということ」という本を買いました. まだ積読状態でこれから読み進めたいところです. ぱっと開いたページに「人は愛されたいと願う一方で, 愛することは簡単であると考えている. 愛することにも技術がある.」というようなことが書かれていたのが決め手でした. 考えても仕方ないことだと思う人もいるかもしれませんが, 「愛するとはどういうことか」という問いへの自分なりの回答を出すときに, 新たな視点を加えてくれるのではないかと期待しています.

考えても仕方のないことシリーズでは, Newton 別冊の「死とは何か」を挙げます. 夜寝る頃に布団の中で考えてしまった経験のある方, きつといることでしょう. この本は, 死を様々な側面から考え, 老化や生死の境界線についても語るなど, 死という現象を科学的に解説します. 私が持っているのは 2019 年の初版ですが, 2024 年の最新版では, 死と向かい合う心理にも触れられています. ある意味で死生観の形成に影響を与える本です.

少し強引に話を自然科学に寄せたところで, 私の担当分野である「流体力学」に関連する書籍を 2 冊紹介します. 1 冊目は大学時代の教科書だった実教出版の「流体力学-シンプルにすれば『流れ』がわかる」です. 2 種類ある流れの記述法について書かれていませんが, 余白の注釈は痒い所に手が届くようなものです. 躓きやすい箇所の補足や本文の内容を異なる視点で説明している箇所など, 参考になる部分があります. 本校図書館にもありますので, 手に取ってください. 昨年, 改訂版が出て, 表紙が変わったようです. 2 冊目は森北出版の「はじめて

学が移動現象論-運動量・熱・物質移動を統合的に理解する」です。流れがあると、そこには運動量の移動が存在します。ざっくり言えば、運動量と熱および物質、これらの移動は同じ形の式で記述できます。異なる3分野が結びつく気持ちよさを読者は味わうことでしょう。この本は約240ページ、12章から成りますが、各章末に5~6問の演習問題が設けられており、そのすべてに解答解説がついているため独習に有用だと思います。

最後に、流れに全く関係のないことですが、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」に収録されている「四又の百合」という物語について、高校時代からずっと気になっていることがあります。もし私が理解できていないだけで、物語の核心に直結していたら良くないので詳細は伏せますが、単なる誤植なのか、何なのか…という内容で、10年ほど思い出したり忘れたりを繰り返しています。文科の先生方の目に留まることを期待しつつこの文章を結びます。

気分任せたとりとめのない文章にお付き合いいただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。



Newton 別冊『死とは何か』



築地徹浩ほか著『流体力学』



杉山均ほか著
『はじめて学ぶ移動現象論』



エーリッヒ・フロム著
『愛すること』

高校時代に購入した
私物の写真です



BOOK HUNTING 2026

今年は霧島市の書店にてブックハンティングを実施しました。

【活動の目的】

学生のニーズに即した書籍を直接購入し、本校図書館の学生用図書
の更なる充実を図ること、併せて学生図書委員が多くの新刊の書籍
に触れることを通じて、書籍に対する知識・見聞を深めること。

2026年6月20日（土）、学生図書委員がTSUTAYA BOOKSTORE 霧
島店にてブックハンティングを行いました。委員全員で店内を探し
回り、専門書、小説、ライトノベルなど多岐にわたるラインナップの
冊の本を選びました。どうぞ図書館で手に取ってご覧ください。



参加した図書委員のみなさん。
当日選書した本とともに店内にて。



選書した本は、BOOK HUNTING コ
ーナーに置いてあります

図書委員による、夏のオススメ ブックレビュー

今回この図書館だより98号の編纂に携わった図書委員からこの夏に是非読んで欲しいイチオシの本を紹介いたします！

どんな本を読めばいいか迷っている、新しいジャンルの本を読んでみたいそんな時のご参考になれば幸いです！

松下龍之介『一次元の挿し木』

二百年前の人骨のDNAが四年前に失踪した妹と一致した。そんな不可解な状況に陥った主人公悠が、真相を突き止める物語です。

物語全体を通して、謎の真相のヒントが散りばれられていて、読めば読むほど謎が深まって行き、次の展開が気になるような文章構成になっていてとても読みやすいです。そして、ラストにはその謎が全て明かされ、点と点が繋がるように真相がわかります。

7月からは、日曜ドラマも始まりました。

ミステリーをあまり読まない人でも、読みやすく、ミステリーが好きな人もきっとハマる一冊だと思います。

ぜひ図書室で借りてみてください！（10 目黒 凜）

南條範夫『駿河城御前試合』

寛永6年9月24日、暗君、徳川大納言忠長の面前で真剣を用いて上覧試合が行われた。11組中で8組は一方が相手を殺しており、あとの3組が相討ちという凄惨な試合で、城内南広場に敷き詰められた白砂は血の海と化し、死臭があたりに漂い、見物の侍さえもひそかに列を退き、嘔吐する者もあった。しかし忠長は終わりまで平然とその試合を見届けたという。救いのない結末、封建社会の意地と意地のぶつかりあい、痴情のもつれが妙に生々しくて読者を物語に引き摺り込む魔力を待っている。勝負自体は一瞬で決着がつくが、そこに至

るまでの過程に重きを置いている。女性を巡っての愛憎、技に溺れた者の傲慢、変態的な性的嗜好、自尊心の肥大化等々と人間の業とも言えるべきものが描かれている。まさに死屍累々で悲哀が漂う作品となっている。(1E 木村 優太)

伏瀬『転生したらスライムだった件』

主人公・三上悟は、ごく普通の会社員として生活していたが、ある日通り魔に襲われ命を落としてしまう。しかし、異世界で「スライム」として転生し、新たな人生を歩み始める。そこで「リムル＝テンペスト」という名前を得た主人公は、仲間を増やしながら魔物たちが平和に暮らせる国づくりを目指す。戦いや冒険を通じて多くの仲間と出会い、さまざまな困難を乗り越えながら成長していく物語です。この作品の最大の魅力は、主人公が圧倒的な力を持ちながらも、その力を支配ではなく平和のために使うところです。戦闘シーンは迫力がありますが、それだけでなく、仲間との絆や国づくり、政治のことなども丁寧に描かれており、物語に深みを与えています。異世界系が好きな方でもそうでない方でも両方楽しめる作品となっています。(1M 児玉 文)

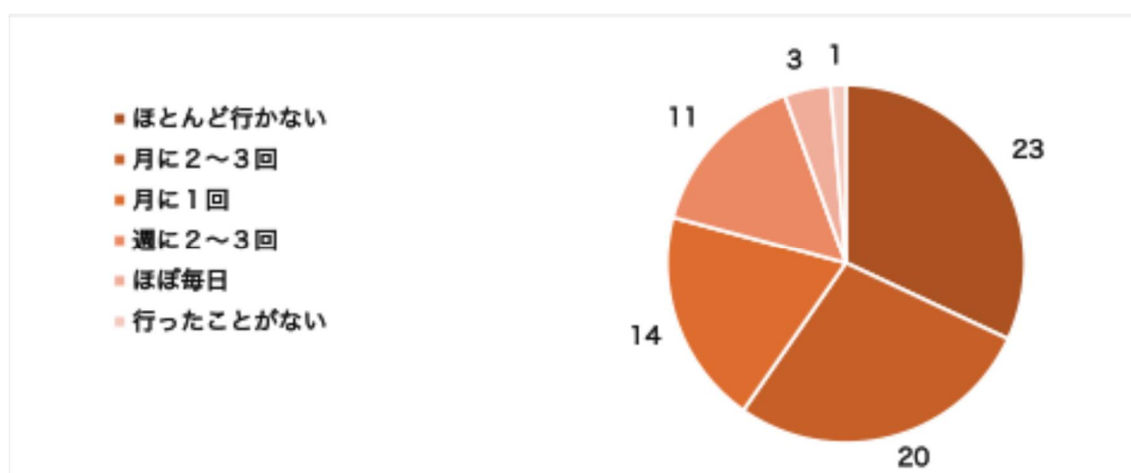
図書館利用アンケート

6/11～6/17 の期間で、図書館利用についてアンケートを実施させていただきました。

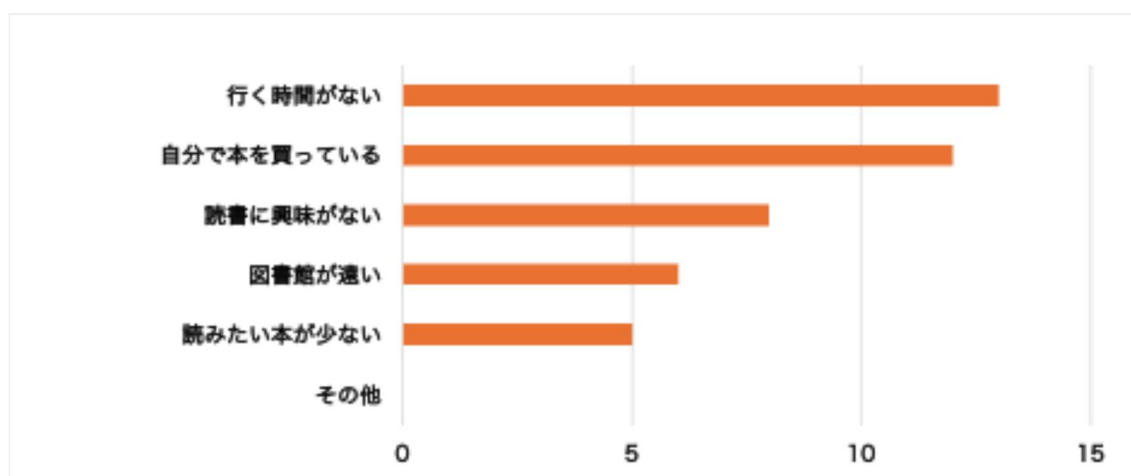
皆様のご協力、大変ありがとうございました。今後の図書館利用や読書環境を、より豊かなものにするため、活用させていただきます。

アンケート結果【回答数：73 件】

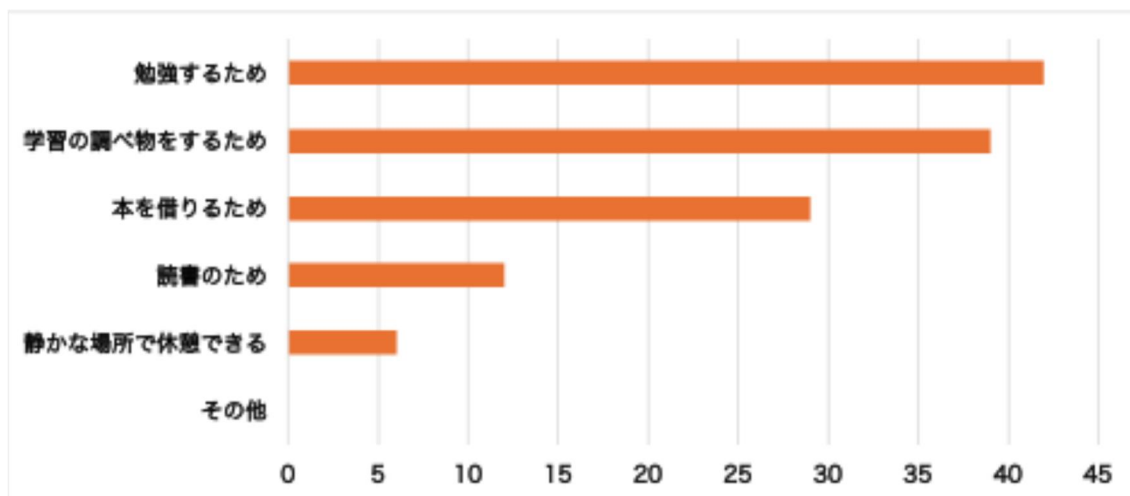
① 図書館にはどのくらい行けますか？



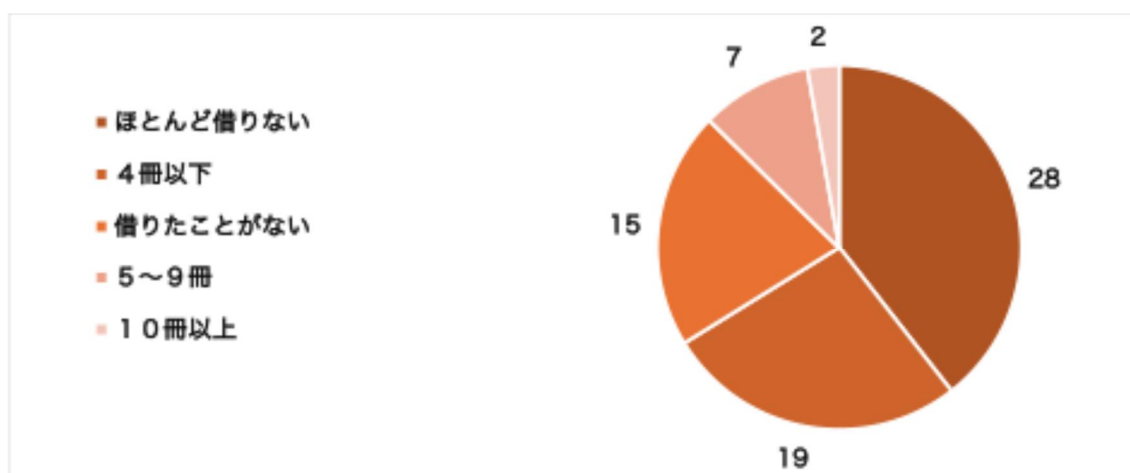
② 質問1について、「ほとんど行かない」「行ったことがない」と答えた方で、行かない理由で当てはまるものを教えてください。



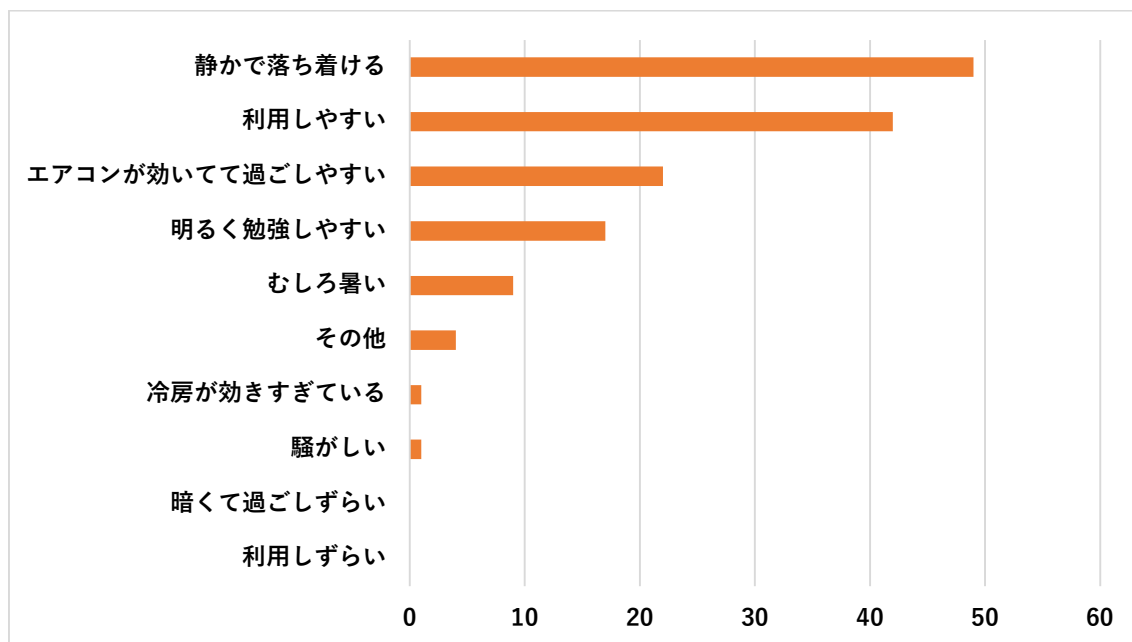
③ どういった目的で、図書館を利用しますか？



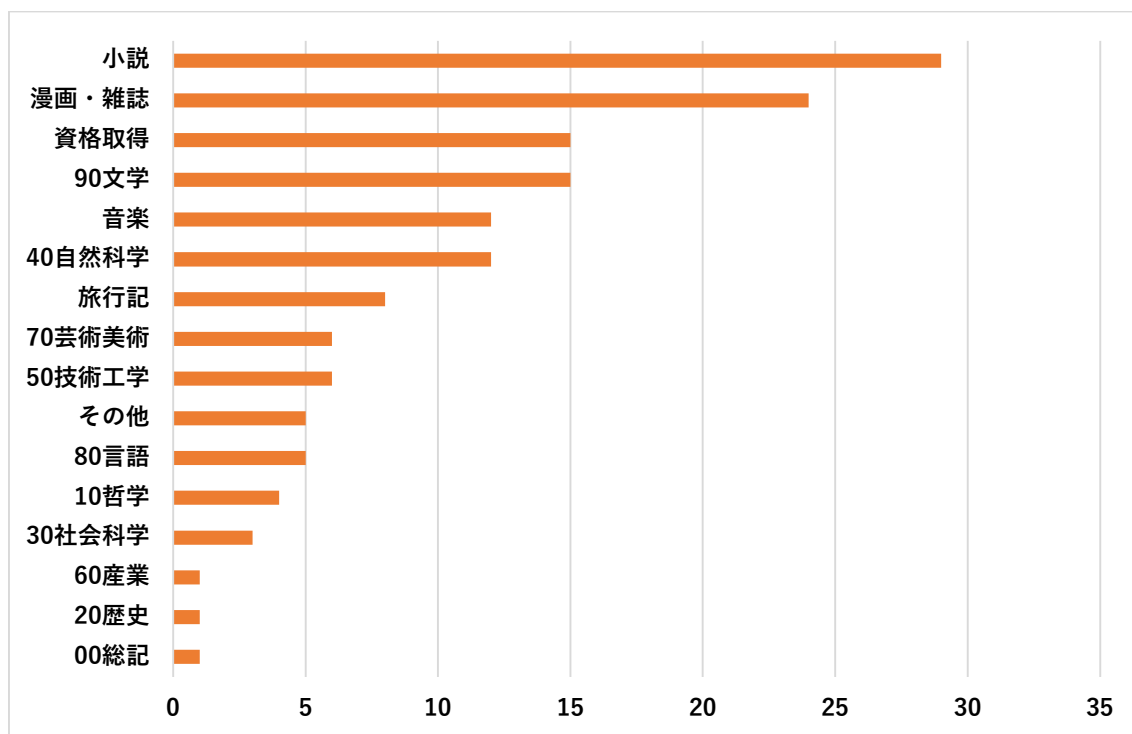
④ 図書館で1ヶ月にどのくらい本を借りますか？



⑤ 図書館の様子について、どう思いますか？



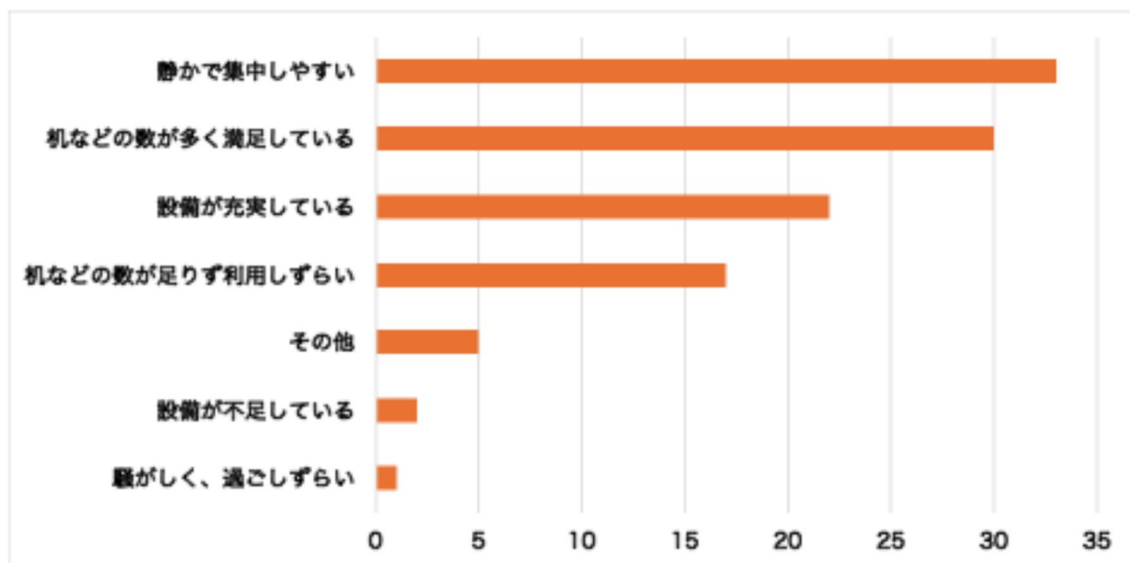
⑥ 今後充実してほしい本のジャンルはありますか？



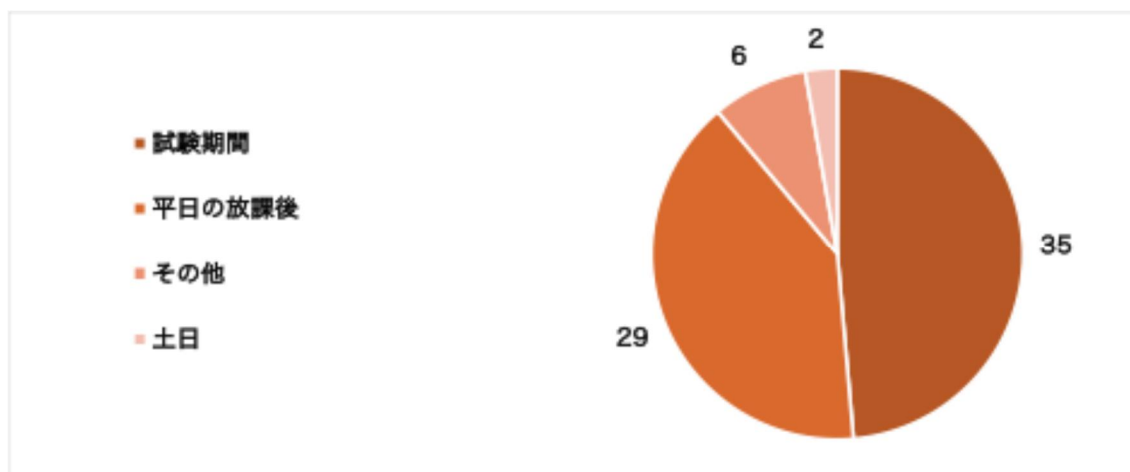
※その他について

- ・投資、お金に関する本
- ・元素の性質、金属陽イオンについて詳しく記載されている本

⑦ 図書館内の自習室の環境について、当てはまるものを教えてください。



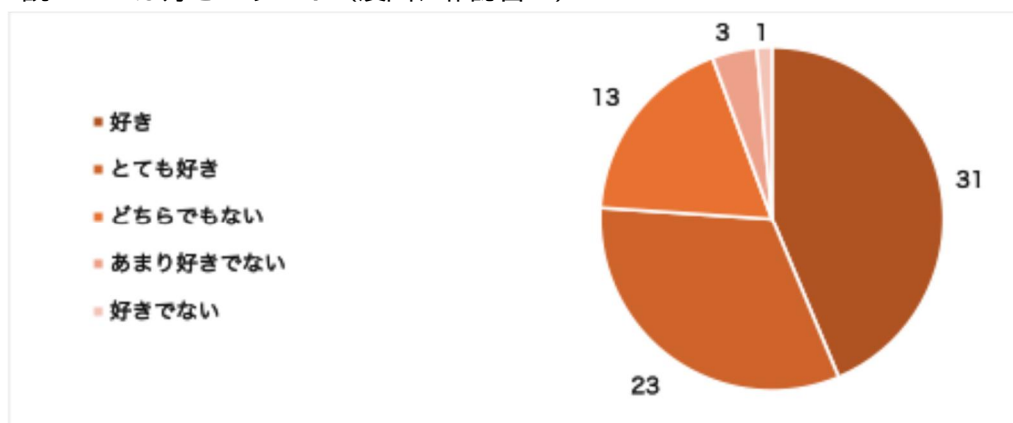
⑧ 自習室は主にどの時間帯に利用しますか？



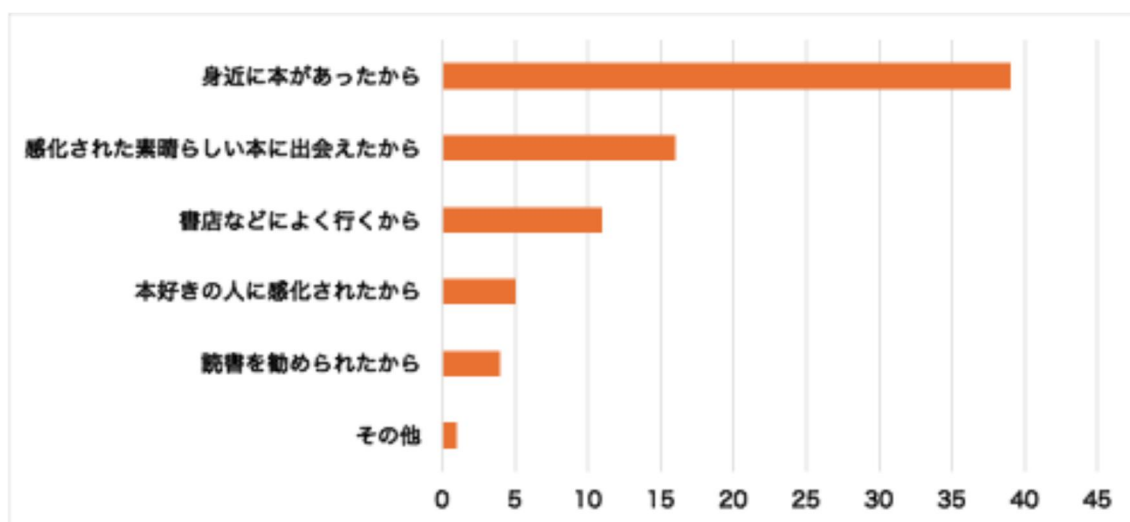
⑨ 自習室利用について、上記の質問 7、8 に関連したことや、自習室への要望があれば自由にご記入ください。

- ・ホワイトボードのインクを変えてほしい。
- ・もう少し涼しく過ごせるようにしてほしい。

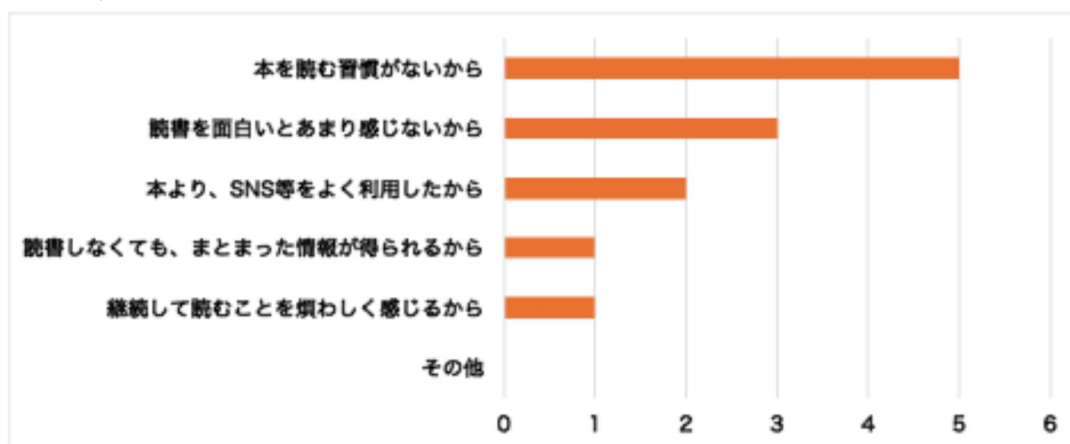
⑩ 本を読むことは好きですか？（漫画、雑誌含む）



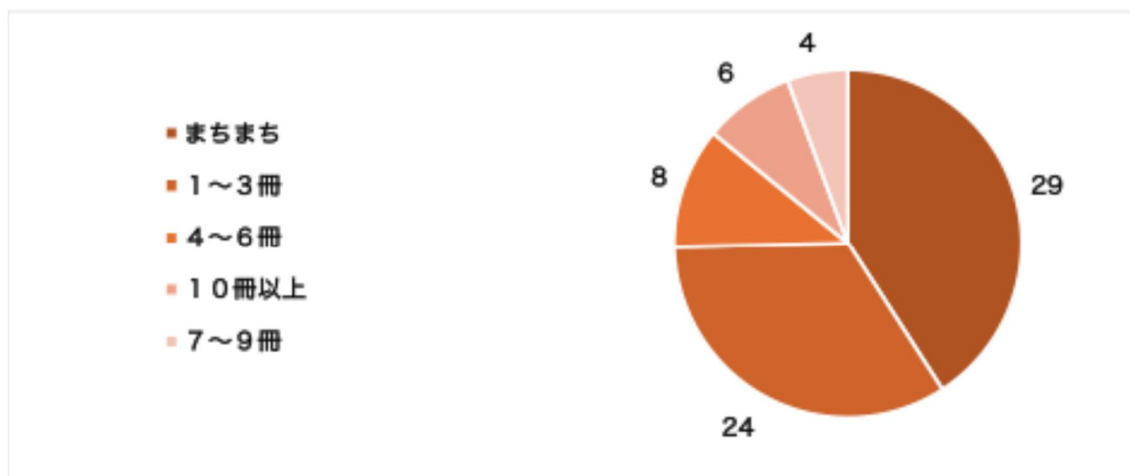
⑪ 質問 10 で「好き」「とても好き」と答えた方へ、きっかけ等があれば教えてください。



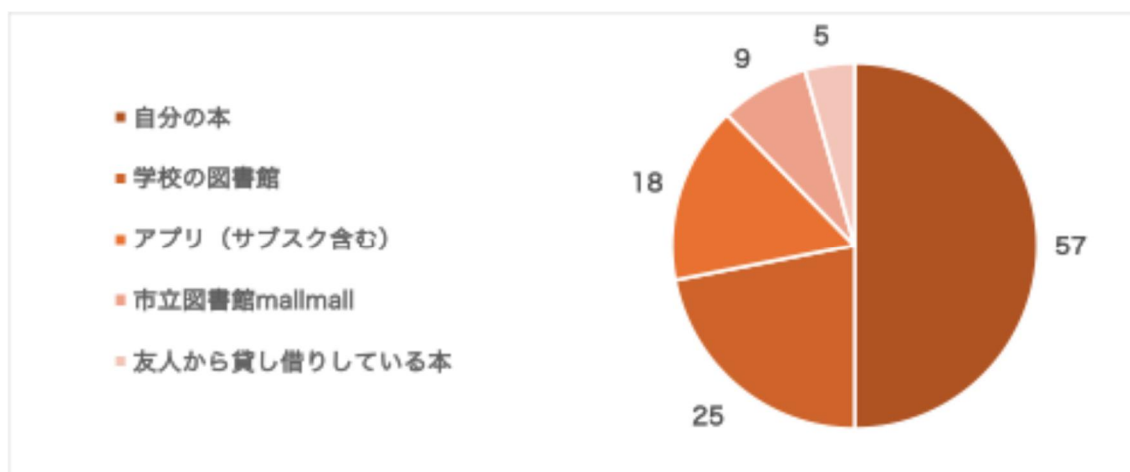
⑫ 質問 10 で「好きでない」「あまり好きでない」と答えた方へ、理由を教えてください。



⑬ 月に何冊ほど、本を読みますか？



⑭ どこの本をよく読めますか？



⑮ この夏に読んでみたい本、もしくは、おすすめしたい本があれば是非教えてください。

- ・物語シリーズ
- ・無職転生 1～26 巻
- ・お返事まだカナ？おじさん構文！
- ・観念結晶大系
- ・ハリーポッター 英語版
- ・方舟
- ・微生物や海洋生物に関する本
- ・あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら
- ・有名なメルヘン文学
- ・ヨモツイクサ
- ・呪術廻戦
- ・聖書
- ・小野先生おすすめの本
- ・推理カルテ

- ・ぼっち・ざ・ろっく！ 廣井きくりの
- ・深酒日記
- ・羊と鋼の森
- ・蜜蜂と遠雷
- ・文豪ストレイドッグス
- ・歌い手社長
- ・ふつつかな悪女ではございますが
- ・フォーチューン・クッキー

上記の中から、図書委員の方で気になった本を選出してみました！全て図書館に置いてありますので、気になった方は是非読んでみてください！



あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら

親や学校にイライラする中2の百合が母親と喧嘩後、70年前の戦時中にタイムスリップ。

特攻隊員の彰と出会い、彼の誠実さと優しさに惹かれていくが、彼には命を懸けて戦地に旅立つ運命が待っていた。

今年は続編が映画化！！

続編見る前に小説で読んでもらいたい本！！

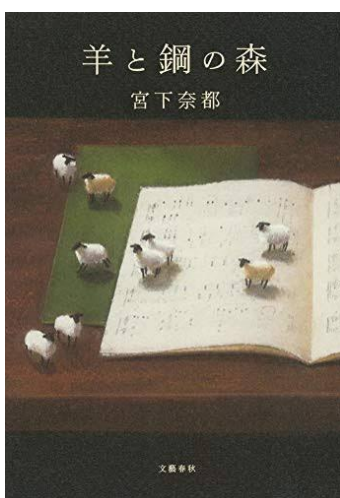


歌手社長

「結成3年で武道館の舞台に立つ」と目標を掲げ、異例の成長を続けている歌手グループ「いれいす」。無名の活動者たちは集め、自らも会社員を辞めて歌手活動に人生を懸けたリーダー、ないこによる、初めてのエッセイ。

2ヶ月もある夏休み！一緒に何か始めてみませんか？

きっと新しい発見が待っている！



羊と鋼の森

高校生の外村が偶然ピアノ調律師の板島と出会い、調律の世界に魅せられる。ピアノを愛する姉妹や先輩調律師、恩師との交流を通じて成長していく青年の姿をみて温かく静謐な筆致で綴った物語。

今年の夏は全力で仲間と頑張ったり、自分と向き合いたい人！是非この本を読んでみてください！



方舟

友人と従兄と山奥の地下建築を訪れた柊一は、偶然出会った家族と地下建築「方舟」で夜を過ごすことになった。しかし、翌日の明け方、地震が発生し、扉が岩でふさがれ、水が流入し始めた。

いずれ「方舟」は水没する。そんな矢先に殺人が起こった。だれか一人を犠牲にすれば脱出できるのだ。タイムリミットまでおよそ一週間。

生贄には、その犯人になるべきだ。——犯人以外の全員がそう思った。

謎解きに自信がある方におすすめ！きっと結末に驚く…



ヨモツイクサ

主人公の外科医・佐原茜は、7年前にその森の近くで家族全員が神隠しのように失踪しており、その事件が深いトラウマとなっていた。警察は一連の事件を熊の襲撃と断定するが、茜は人間をも超越した殺戮の痕跡や、作業員が目撃した「神秘的な蒼い光」に違和感を抱く。

やがて茜は、警察官である姉の婚約者と共に事件の真相を追いつめる。しかし、彼女たちの前に現れたのは、究極の遺伝子を持ち、生命を食い尽くす存在——「ヨモツイクサ」であった。

暑い夏にはホラーで涼しくなりませんか？
読み進める手が止まらなくなる一冊！！

改めまして、図書館に関するアンケートにご協力いただき、大変ありがとうございました。皆様にいただいた「生の声」をしっかりと受け止め、より本が探しやすい工夫や、居心地の良い空間づくりに活かしていきます。

これからも皆さんにワクワクしてもらえるような図書館にしていきますので、是非たくさん足を運んでください。

編集後記

4C 久保楼生

筆を持つ腕に滴る汗眺め まだ来ぬ夏に鬱になりそう

6月下旬、編集後記を書きながら、私は思わず一首詠んでしまいました。意味は、「六月なのに暑くない？ 今年の夏、かなり大変そうだなあ」ということです。

さて、図書だよりを読んでここまで辿り着いた皆様も、先にこちらから読み始めた皆様も、今年の夏はどのように過ごされる予定でしょうか。私は今年で4年生ということもあり、インターンシップに参加する予定です。一人で東京を訪れることになるので、今から少し楽しみにしています。

ところで、冒頭から短歌で始まったこの文章。お気づきの方もいるかもしれませんが、最近私は短歌にハマっています。

きっかけは去年の夏休みの課題でした。内容は「俳句を10句詠む」というもの。しかし、それだけでは少し面白くないと思い、私は日記代わりに一日一句ずつ詠んで提出しました。

そのときに感じたのが、「制約が多い！」ということです。文字数も、季語も。もちろん無季俳句というものもありますが、私には少し物足りなく感じられました。

そんな中で出会ったのが短歌です。季語は必要なく、俳句よりも文字数に余裕がある。その分、表現の幅がぐっと広がり、とても楽しく感じました。

興味を持った方は、まず歌集を手にとってみるのがおすすめです。水町春さんの『微炭酸短歌』は読みやすく、初めての一冊にもぴったりだと思います。そして、「自分でも詠んでみたいな」と思ったら、まずは手遊び感覚で気軽に作ってみてください。難しく考える必要はありません。

君だけの三十一の連なりを 心の中で奏でてみよう



水町春 著『微炭酸短歌』